令和７年度　きのくにコミュニティスクール座談会

趣　旨：市町村教育委員会が、きのくにコミュニティスクールの仕組みを生かした学校運営や推進の方策について、協議・情報交換を通して一層理解を深め、所管する学校の学校運営協議会及び地域学校協働活動等に対する実効性のある伴走支援体制の構築を図る。

テーマ：『学校と地域をつなぐキーパーソン』

対　象：各教育委員会コミュニティ・スクール担当者（学校教育課・社会教育課から担当者の出席を依頼）

会場等

	紀北会場	紀南会場
開 催 日 時	令和７年１２月１５日（月）14：00～16：00	令和７年１２月１８日（木）14：00～16：00
開催市町村	和歌山市	田辺市
会　　場	和歌山市　西コミュニティセンター	和歌山県立情報交流センターBig.U
参　加　者	１９名 （和歌山市、海南市、橋本市、有田市、紀の川市、岩出市、紀美野町、かつらぎ町、九度山町、湯浅町、日高町）	２３名 （橋本市、御坊市、田辺市、新宮市、美浜町、由良町、印南町、みなべ町、日高川町、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、北山村、串本町）

【SOUND カード】を用いて情報交換
SOUND カードは、
どのようなミーティングにおいても
「心理的安全性」を高め、
「目指したい方向性」を見える化し、
「具体的な行動」を決定するための、
ミーティング進行補助ツールです。

【　事　例　発　表　内　容　】

【紀北の開催】

発表者：宮本　治　氏（岩出市教育委員会　教育総務課　指導主事）

≪　取　組　≫

○推進に係る組織

・教育総務課３名・生涯学習課５名からなる「**プロジェクトチーム（ＰＴ）**」を設置し、年４～７回のＰＴ会議の開催（Ｒ２～Ｒ４）
　→Ｒ５からは、教育総務課と生涯学習課が連携した推進会議を年４回開催

○地域学校協働活動

・ＣＳを支える学校支援ボランティアの確保　１２０名（Ｒ２）、２３２名（Ｒ３）、２９１名（Ｒ４）、
　３１３名（Ｒ５）、３７３名（Ｒ６）、３９４名（Ｒ７）※のべ人数

○学校運営協議会の活性化

・部会制の設置
・児童会役員と学校運営協議会委員の意見交流
・生徒会役員と学校運営協議会委員の意見交流
・学校運営協議会委員、保護者、教員で熟議

岩出市イメージキャラクター
そうへぃちゃん

○教育委員会の伴走支援

・各校の学校運営協議会にＰＴメンバー（現在は推進会議メンバー）が参加
・市教委作成の「**コミスク通信**」を配信
・市教委主催のＣＳ研修会の開催
　→対象者を委員、教職員、教頭、校長など絞り毎年開催
・研修会の講師として、和歌山県ＣＳマイスター派遣事業の活用

≪大切に進めてきたこと≫

☆　教育総務課と生涯学習課が連携して推進
☆　細く、永く、焦らず、焦らさず、合い言葉は「**無理はしない！**」
☆　県開催研修内容と県ＣＳマイスターの効果的な活用

【紀南の開催】

発表者：丹後　裕貴　（紀南教育事務所　社会教育課　社会教育主事兼指導主事）

≪　すさみ町の取組　≫

〇すさみ町の学校運営協議会

・１保育所、１小学校、１中学校合同学校運営協議会（委員１９名、年間２回開催）

・委員が参加して活発な協議会にするために！

報告中心の会　→　熟議に重点を置いた会へ（オープンカフェ形式）

・熟議のテーマは、町の重点課題

「読書活動の推進」「国際理解教育」の２本柱

〇熟議内容をカタチにしていくために

・昨年度までは、指導主事がコーディネーター的な役割

⇓　しかし

①担当指導主事が代わっても協議会の体制が変わらない、“持続可能な体制づくり”の必要性。

②より学校運営協議会が活発になってほしい。

③委員が主体的に運営を進めていける仕組みづくり。を感じていた。

⇓　そこで

・今年度は、委員の中から２名にコーディネーターを依頼【社会福祉協議会職員】

すさみ町内イノブータン王国

イノブータン大王

〇社会福祉協議会職員にコーディネーターを依頼した理由

日ごろの地道な活動から・・・

・地域とも、学校ともつながりが深い　／　地域の声を敏感にキャッチ　／　とても頼りになる存在（協働）

〇現在とこれから

・コーディネーターの位置づけに伴い、作業部会を設置　　（作業部会・・・少人数で熟議内容を整理し、役割分担等を話し合う場）

・コーディネーターの視点から、現在行っている学校と地域の活動を検証する機会を持つ予定

令和７年度　コーディネーターネットワーク

趣　旨：市町村のコーディネーター（コーディネーター役を担う方等も含む。）が、きのくにコミュニティスクールの仕組みを生かした学校運営や推進の方策について、協議・情報交換を通して一層理解を深め、きのくにコミュニティスクールのさらなる推進に向けた体制の構築を図る。

テーマ：『学校と地域をつなぐキーパーソン』

対　象：市町村コーディネーター（コーディネーター役を担う方、本研修内容を域内に伝達できる方等）

会場等

	紀北会場	紀南会場
開 催 日 時	令和７年１２月１５日（月）14：00～16：00	令和７年１２月１８日（木）14：00～16：00
開催市町村	和歌山市	田辺市
会　　場	和歌山市　西コミュニティセンター	和歌山県立情報交流センターBig.U
参　加　者	６名 （和歌山市、海南市、橋本市、有田市、岩出市、日高町）	１０名 （橋本市、田辺市、新宮市、美浜町、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町、串本町）

【　研　修　会　内　容　】

講　師：大谷　裕美子　氏（和歌山県ＣＳマイスター）

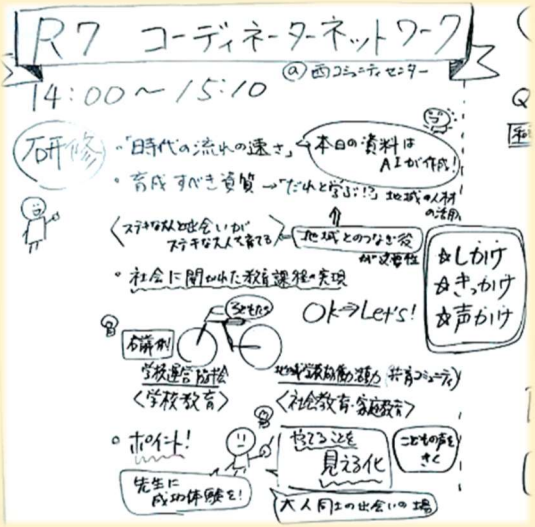
〇コーディネーターはなぜ必要？

・時代の流れは速い→学習指導要領は未来を想定して書かれている

・「社会に開かれた教育課程の実現」→《誰と学ぶ？》

「こどもは素敵な大人に出会うことでステキな大人に育つ」

⇒**地域とのつなぎ役が必要**



〇学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進で！

・支援から協働へ※協働＝Win－Win の関係

・役割、責任分担

〇コーディネーターの役割

・やっていることの見える化

・先生方に成功体験を！

・大人同士の出会いの場づくり

＜☆しかけ　☆きっかけ　☆声かけ＞

〇参加者から

・コーディネーターがやっていることを知らない先生も

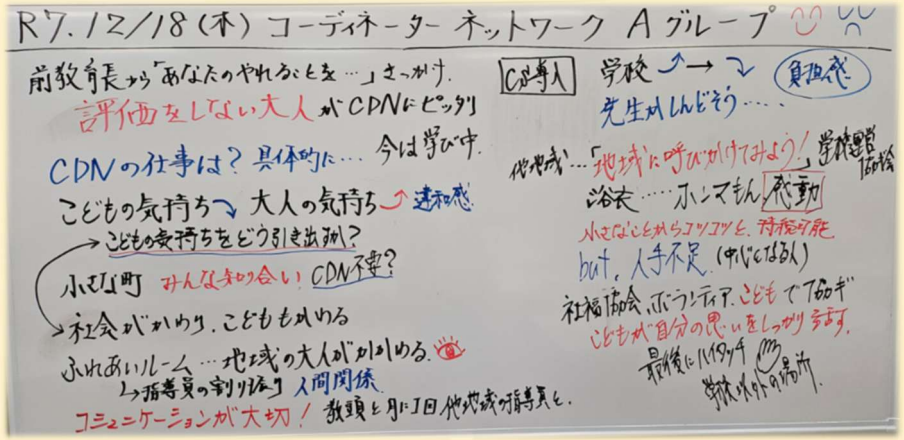
・２年目から先生と直接連絡を取り合うようになった

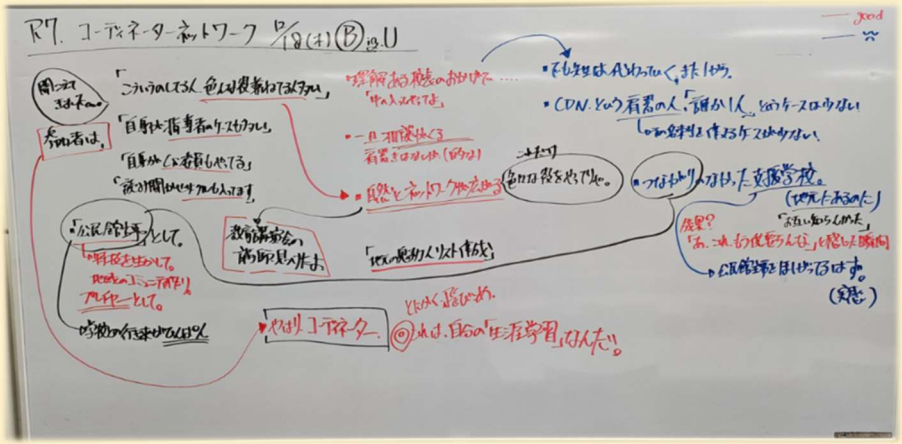
・学校の敷居が高い

・PTA 活動に非協力的な若者が増えた

・学校から地域の出番をつくって！

・先生は何を協力してほしいのか分からない





座談会・コーディネーターネットワーク合同研修

『コーディネーターの仕事』土屋垣内　美信　氏（橋本市立紀見東中学校区共育コミュニティ紀見小学校共育コーディネーター）

〇知らせる・伝える

・学校行事などを地域へ、地域の声を学校へ。

☞　ＨＰやＳＮＳもいいが、『口コミ』が効果大！

〇こどもを知る

・登校指導でこどもの顔を見て「おはようございます！」

☞　挨拶だけではなく一言付け加えることで距離が縮まる！

〇話しかける

・いろいろな行事に参加してくれる人（サポーターさん、ボランティアさん）に話しかける。

☞　話しかけることで、さらに多くの人と『つながる！』

『コーディネーターがいることで（学校の立場から）』　紀北会場：中谷　有美子　氏（和歌山県ＣＳマイスター）

〇地域と学校の情報共有、目標の共有がしやすく、学校運営協議会での意見が活動に反映されやすい。

☞　地域学校協働活動との連携がスムーズ！

〇活動がより計画的で、運営がスムーズに行える

☞　より適切な協力者を集めることができ、充実した内容の活動が可能となる！

☞　地域の特性に応じた活動ができる！

〇協力者の募集や連絡調整、活動内容の企画運営等

☞　学校の負担が軽減される！

『ＣＳを成功させるためのポイント（校長の立場から）』　紀南会場：榊　洋史　氏（橋本市立高野口小学校長）

〇校長の教育理念を明確にする
- ☞　『ウェルビーイングな学校づくり』『ウェルビーイングの共創』

〇地域と教職員・児童をつなぐ
- ☞　校内に学校運営協議会委員やコーディネーターの写真等を掲示

〇みんなに当事者意識を持ってもらう
- ☞　全教職員が部会に所属

〇こどもの変容を共有する。
- ☞　学校運営協議会委員（地域の大人）とこどもが話し合う機会の設定

〇ふり返りを行い持続させる
- ☞　レーダーチャートを使用し、地域と学校の関係を俯瞰することで、より具体的な方向性を探る

『地域コーディネーターのつくり方と伝えたいこと（行政の立場から）』下田　喜久恵　氏（和歌山県ＣＳマイスター）

〇私たちの考え
- ☞　警戒心を解こう（誤解のないように）
- ☞　必要性を説こう（ゆるやかに）
- ☞　校長と一緒に適任者のめどをつけよう ⇒ 会長に相談

〇私たちの役割
- ☞　自ら地域コーディネーターとして働く（仕事内容を示す）
- ☞　学校と地域コーディネーター（協力員）をつなぐ
- ☞　「地域コーディネーター」の周知に努める
- ☞　やりがいや悩みを聞く

〇コーディネーターに「協力者やボランティアの方々に伝えてください」
- ☞　活動が学校にとっても、地域や自分にとってもプラスとなること
- ☞　こどもにとって、マイナスな情報・個人的な情報は「守秘義務」がかかること
- ☞　無理して参加する必要はないこと